



Rob・タナー氏

(第三種郵便物認可)

カッパーリーは、電力・ガス・通信などを主にインフラ関連事業者に対する資産の投資意思決定を支援するソリューションソフトを提供している。欧米の公益事業者を中心とした多くの納入実績を上げ、日本にも5年前に進出し、本格展開に向けて準備を進めてきた。日本とアジア・太平洋地域を担当するマネージングディレクター、Rob・タナー氏がこのほど来日した機会をとらえ、同社製品の特長などを取材した。

カッパーリー

カナダ生まれのソフトウェア企業カッパーリーは、電力・ガス・通信などを主にインフラ関連事業者に対する資産の投資意思決定を支援するソリューションソフトを提供している。欧米の公益事業者を中心とした多くの納入実績を上げ、日本にも5年前に進出し、本格展開に向けて準備を進めてきた。日本とアジア・太平洋地域を担当するマネージングディレクター、Rob・タナー氏がこのほど来日した機会をとらえ、同社製品の特長などを取材した。

投資効果の最大化を実現



大澤隼人氏

CSはその複雑な計算作業を迅速に実行できるツールだ。

表計算ソフトでは限界

設備投資評価ソフト、本格展開

投資案件が増えると最適解を得る計算は複雑に

16通り 投資（工事）案件を4年間に渡り検証するだけで、最適解を得る計算は16通り。

256通り 投資（工事）案件が4件になると、4年間に渡る検証は256通り。

1億通り 投資（工事）案件が100件になると、4年間に渡る検証は1億通り。

256億通り 投資（工事）案件が400件になると、4年間に渡る検証は256億通り。

使い方は簡単だ。投資対象ごとに、関係する事業機会やリスクなどの影響要素を検証できるよう、あらかじめ380種類以上の項目が用意されており、利用者はその中から必要な要素を選択して、各社独自のバリューフレームワーク（価値評価シート）が設定できる。既に利用している評価指標や計算式を加えることも可能だ。

そのバリューフレームワークを使えば、ある投資案件を前倒しして計算できる。

ソフトで評価するのは不可能と言つていい。その複雑な評価プロセスをCSは可視化し、迅速に価値を計算できる。

使い方は簡単だ。投資対象ごとに、関係する事業機会やリスクなどの影響要素を検証できるよう、あらかじめ380種類以上の項目が用意されており、利用者はその中から必要な要素を選択して、各社独自のバリューフレームワーク（価値評価シート）が設定できる。既に利用している評価指標や計算式を加えることも可能だ。



ライブラリートップ画面のイメージ

現価値を導く計算プログラムを種目ごとに、ガス事業者が管理する個社固有のファイルの他、「ガス一般」「ガス供給」といったファイルには数十・数百件におよぶ計算式群が格納され、それそれに条件を付与すると事業価値が算出される。

都市ガス事業者はガス導管の敷設計画をはじめ、管路の新設や統廃合、近年では新規事業への投資状況は年々厳しさを増し、国際情勢の不透明感も強まる中で投資を最大化する「バリュー」、資本価値を最大化する「アセット」などを、毎年数多くの多様な投資案件を抱えている。環境対応や競争力を強める中で投資を実現する投資案件はますます重要になってきている。投資の中身や実行時期を見直せば、それが最も重要なため、いちいち表計算



Building a better world, one decision at a time

カッパーリーは投資効果の最大化、ESGなどの経営目標達成のために、いつ、どこに設備投資をすべきかの一元的な判断を支援します。

